

厳島神社：版絵（舞楽）

ここに展示されている黒い木版は 1380 年代のもので、スタンプとほぼ同じように使われていました。インクに浸けて布地に押し当てることで、現存する日本最古の芸能の 1 つである舞楽（宮廷舞踏）のための衣装を装飾しました。舞楽は土着の神道神話とアジア本土から渡来した仏教の影響の両方を包含しており、18 世紀に宮廷と大部分の貴族が拠点とした京都で発展したと考えられています。古代の京都では天皇の護衛たちがしばしば舞楽を上演するために招かれており、この熊の絵は近衛兵が使っていた記章に起源を持つと考えられます。

舞楽はそのゆっくりとしたテンポ、最小限の動き、精緻な衣装、および伴奏される雅楽を特徴とします。厳島神社では 12 世紀から舞楽が上演されてきました。当時の強力な軍事的指導者だった平清盛（1118～1181 年）が神社の建物を造り直して庇護の下に置き、京都の貴族文化を宮島に紹介したのです。今でも神社本殿のすぐ正面にあるテラスの上の四角形のステージ「高舞台」で、1 年を通して決められた日に上演が行われており、広く一般に公開されています。